

つどい

第15号

菱田コレクション展、開幕。



めぐろ歴史資料館最大の玩具コレクションの企画展が
令和2年6月2日(火)からはじまります。

春の企画展「郷土玩具へのまなざし ～菱田コレクション展～」

入館無料

令和2年6月2日(火)～10月25日(日)

【休館日】月曜日、月曜日が祝日の場合は翌日

区内にお住いだった菱田忠夫氏のご遺族から、平成5年に遺品の寄贈を受けました。その後、平成30年、令和2年にも寄贈された「菱田コレクション」と称される資料群は、土人形、土笛、土鈴、こけし、張子などの郷土玩具や、絵馬、御札、トランプ、カルタ、マッチ箱、兜など様々な種類があり、その数は1200点を超えます。蒐集された地域は国内に留まらず、広く海外にも及んでいます。

本展では、菱田忠夫氏が出張先などで蒐集した各地の名品、土産、玩具などを厳選して展示するとともに、菱田忠夫氏が描いた郷土玩具のスケッチ画も併せて紹介します。貴重な昭和の民俗資料であり、菱田忠夫氏とご家族の大切な思い出の品・記録でもある、「菱田コレクション」。その魅力をぜひ堪能ください。

※関連事業も予定しています。詳細が決まりましたら、めぐろ区報及び区ホームページでお知らせします。

郷土玩具は地域の生活の中で伝承されてきたその土地特有の玩具です。私は「初辰猫」と申します。土人形です。



車のおもちゃ・牛・馬・獅子頭

「車のおもちゃ」、「牛馬」、「獅子頭」という区分は菱田さんの画帳のタイトルによる。「車のおもちゃ」は台座に車輪がついているものや、車輪が玩具のパーツになっているものもある。



車輪がついた玩具(上)
紙製の獅子舞 ずばんば(下)



イタリアシチリアの馬車(上)
九州地方の木製玩具(下)

土人形・土笛・土鈴・張子

菱田さんがお好きだったという土人形は、土を主材料に作られた郷土玩具。型に紙を張り、成形した郷土玩具は「張子」という。

中部地方のさまざまな土鈴(右)



車輪がついた玩具(上)
紙製の獅子舞 ずばんば(下)



沖縄の張子 チンチン馬(上)

「父のコレクション」～故菱田忠夫氏ご遺族の手記より～

何といっても郷土玩具が一番のコレクションだった。

会社の出張で地方に行くことが度々あり、その時は、出張先から帰宅前に小包が届き、開けると玩具だった。帰宅して、楽しげに取り出して披露してくれた。幾つかは、私たちへのお土産だった。出張先で仕事の合間に、その土地の郷土玩具を見て歩き、買ったようだ。子どもへのお土産も忘れない人だった。土地のお饅頭や名物なども買ってきて、家族で食べたものだ。

いつからか、日本橋の白木屋百貨店では、正月の4日に店を開け、毎年、全国郷土玩具展を行った。当時は、正月のデパートは6日ぐらいまではお休みであった。その玩具展に出かけては買うようになった。独楽作りを実演していた時は、その職人と仲良くなり、自分の考えた色遣いのものを作ってもらったりした。もちろん、子どもをお供に出かけていた。

玩具は、季節によって、床の間や座敷の違い棚などに飾っていた。郷土玩具では、土鈴が好きで、土の玩具が好きだったと思う。

そして、自分で紙を選び、和綴じの冊子を作り、そこに郷土玩具の種類ごとに絵を描き、様々な柄の和紙を貼ったしっかりした箱を作り、種類ごとに収めていた。



「これは、見つけた時にとても気に入って、それから、郷土玩具に興味を持ち、集めだした最初のものだ。」と菱田氏が語っていたという酒田(山形県)の獅子頭(ご遺族所蔵)



こけし・海外の玩具など

中国、インド、メキシコ、ペルー、ヨーロッパなど、海外の民族性にあふれた玩具も多数ある。

こけしたちは、微笑んだり、はにかんだり、すまたたり、じっとこちらを見つめたり。その表情は様々である。(左)



中国の風



みて、僕たちのスケッチがあるよ!

土人形「犬三匹」



画帳

菱田さんの郷土玩具への優しいまなざしが伝わってくるスケッチ画(右)。菱田さんご自身の卓越した芸術性をうかがい知ることができ、コレクションをより魅力的なものとしている。

※ご遺族からお借りした画帳を展示します。



目黒とオリンピック

～オリンピック道路と聖火リレーのトーチ～

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催まであとわずか。そこで、今回は、「目黒とオリンピック」と題し、戦争のため幻となった東京オリンピックと前回の東京オリンピックの聖火リレーについて、目黒との関わりをご紹介します。

1 幻の東京オリンピック道路

1964年（昭和39年）に開催された東京オリンピックは、記録写真で皆様も目にのる機会もあり、また、直接テレビで見たという記憶をお持ちの方もおられるのではないかでしょうか。

しかし、今から80年前の1940年（昭和15年）に戦時体制が迫る中の情勢等で開催権を返上し、幻となった東京オリンピックについて、記憶に留めている方はそう多くはないでしょう。そのような幻の東京オリンピックに関わる目黒区内の遺構、それは目黒区の北部、青葉台から東山、上目黒を通り、世田谷区下馬に抜ける、野沢通りと呼ばれる道路です。（右上地図参照）



東山1丁目所在の鴻ノ巣橋（右上地図参照）陸橋から野沢通り駒沢方面を臨む

1940年のオリンピック計画では、駒沢競技場を主会場として開催する予定でした。目黒区内の通過距離は1500mほどですが、この道こそ、駒沢競技場と都心を結ぶオリンピックのために造られた道です。それまでの地形に沿って曲がった道に比べ、多少の屈曲はありますが、ほぼ直線に近い道となっています。この道は渋谷区から目黒区を経由し世田谷区の駒沢競技場まで選手や大会関係者などを送迎するために計画されました。大会に向けて整備がなされ、世田谷区野沢で環状7号線と交わるところまでは完成しましたが、あと数百メートルで開通するというところで、戦時状況の逼迫により東京オリンピックの中止が決まり、開通しないまま今日に至っています。その後、未開通区間の整備が行われましたが、現在でも数十



メートルほど未開通部分があり、細い迂回路を通過することで、かろうじてつながっている状況です。

また、この道は第二次世界大戦前、自動車が今日のように普及していなかった時代に造られたため、片側1車線と現在の感覚では決して広い道ではありません。しかし、当時はこれで十分と考えられたのでしょう。この道幅ゆえに、1964年の東京オリンピックにおける駒沢競技場への接続道路としては不十分と考えられたのか、再度の開通の試みはなされませんでした。

上目黒、東山地域で野沢通り沿いに昔から住んでいる人は、この道を「オリンピック道路」と親しみをもって呼んでいますが、現在ではそのような経緯があったことを知っている方も少なくなりました。

2 聖火リレーのトーチ

1964年10月10日に行われた東京オリンピック開会式の2日前、目黒区内で聖火リレーが行われました。聖火リレーの都内のコースは、第1コース（山梨コース）、第2コース（神奈川コース）、第3コース（埼玉コース）、第4コース（千葉コー

ス）の4コースで、目黒区は、大田区から入って、品川区、目黒区、渋谷区、港区を経て、千代田区が終着点となる第2コースでした。目黒区内では山手通りが第1班、第2班の2区間に分けられ、品川・目黒区境から目黒警察署前までの1.3km（第1班）と、そこから目黒・渋谷区境の1.1km（第2班）を、正・副・随走者合わせて46人が走りました。（左ページ地図参照）

正走者は、第1班は日本大学（当時）の小山敏雄氏、第2班は都立駒場高校（当時）の小原政則氏が務めました。

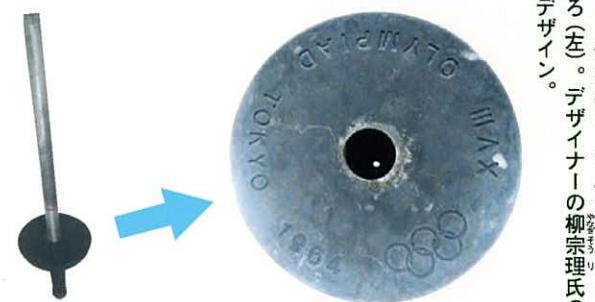
今回の東京2020オリンピック聖火リレーで使用されるトーチは、日本らしく桜の色と形をモチーフとしていますが、1964年の前回大会のトーチは、どのような形だったのでしょうか。今回、トーチを抜いた状態のトーチホルダーの写真をご紹介します。

五輪のマークとともに、「XVIII OLYMPIAD TOKYO 1964」という文字が刻まれています。（※XVIII…第18回）夏季オリンピックの正式名称は、「オリンピアード競技大会」といい、これに対し冬季オリンピックは「オリンピック冬季競技大会」が正式名称です。どちらも、『オリンピック憲章』の「オリンピック競技大会」の項目に定められています。オリンピアードとは、前回のオリンピックから次のオリン

ピックまでの4年間を単位とし、その1年目にオリンピックを開催するという考え方です。第1回オリンピアードは1896年1月1日から1899年12月31日で、東京2020オリンピックは、第32回オリンピアードということになります。

このトーチホルダーは東京オリンピックのエンブレム入りの箱に収納されていました。（写真下）1961年（昭和36年）に作成されたポスターのデザインが、エンブレムとしても使われました。

めぐろ歴史資料館では、聖火リレーに使用したトーチを2本所蔵していますが、そのうち1本を常設展示しています。当館にお越しの際は、ぜひご覧ください。



トーチホルダーを上から見たところ。デザイン。デザイナーの柳宗理氏の名前が記されています。

公式エンブレムがデザインされたトーチホルダーの箱（右）



左のポスターを含め3種類の競技ポスター及びロゴの公式ポスターを当館で所蔵。エンブレム及びポスターのデザインは、デザイナー鷹倉雄策氏による。

～新指定文化財について～

令和2年2月20日付けで、宗教法人祐天寺（目黒区中目黒5-24-53）が所有する木造二天王立像（2躯）（写真右）が、新たに目黒区指定有形文化財（彫刻）に指定されました。これにより、目黒区指定文化財は36件になりました。

※木造二天王立像は非公開です。

木造二天王立像



令和元年度を振り返る ～めぐる歴史資料館企画展・講座のご紹介～

企画展・ 講演会

目黒新富士築造200年記念イベント「目黒の富士山信仰」
企画展「目黒の富士塚・富士講資料」6月1日～9月1日
講演会「目黒新富士をめぐる新研究」7月13日・20日

2019年（令和元年）が1959年（昭和34年）まで現存していた目黒新富士の築造200年にあたること、また当館常設展示の目玉展示が目黒新富士の北側で発見された「胎内洞穴」であることから、記念イベント「目黒の富士山信仰」を開催しました。企画展「目黒の富士塚・富士講資料」では、目黒新富士、目黒元富士、そして目黒に唯一残っていた富士講（山吉経ヶ嶽講）に関する資料を展示し、江戸時代から昭和初めにかけての庶民の富士山信仰について紹介しました。また、関連事業として、講演会「目黒新富士の築造と胎内洞穴の謎をさぐる」（講師：当館学芸員）、及び「最新研究から迫る近藤重蔵と目黒新富士の謎」（講師：白根記念渋谷区郷土博物館・文学館 学芸員 松井圭太氏）を開催し、企画展、講演会とともに、国内外から多くの方々が参加をいただきました。



名所江戸百景
「目黒新富士」

講 座

はじめて読む古文書 11月2日～12月14日 全4回

古文書を読み解く講座を行い、4回で延べ130名の方にご参加いただきました。初心者の方にもわかりやすく、1回で完結する内容の古文書を選びました。第1回は「一軒茶屋由緒」（鎬木家文書）（将軍徳川家光と目黒との関係について探る。）、第2回は「綱差役就任二付心得書」（川井家文書）（鷹狩りで獲物となる諸鳥を飼育した綱差役の役割について学ぶ。）、第3回は「徳川家綱朱印状」（東光寺文書）（東光寺領であった食郷の歴史について辿る。）、第4回は「村由緒并諸式控帳」（鎬木家文書）（寛永9年（1632）に中目黒村が徳川秀忠の夫人崇源院（江）の御靈屋料になったことなどを確認する。）を読みました。いずれも、江戸時代の目黒の様子を考える上で興味深い内容の古文書です。また、実際に本物の古文書を見ていただき、受講者の方に古文書を身近に感じていただく機会としました。アンケートでは、ほとんどの方が、また開催してほしい、ぜひ参加したいと回答されました。

企画展・ イベント

冬の企画展 昔のくらしと道具展「くらしのうつりかわり」11月23日～翌3月1日
冬の体験イベント「足踏みミシンを動かしてみよう！」1月11日～2月29日 全3回
「昔の明るさを体験してみよう！」2月1日・22日 全2回

明治・大正・昭和・平成と、私たちのくらしをより便利にしていった生活の道具は、いったいどのように変化していったのか、食事の道具や暖房器具、アイロン、洗濯機、電話機、娯楽など、生活に欠かせない日常の道具の形の特徴などを紹介し、社会科見学の小学生をはじめ、幅広い年代の方がたに歴史に親しみ、くらしを考えていただく機会となりました。また、「オリンピックのうつりかわり」として、初公開の資料も含め、1964年（昭和39年）に開催された東京オリンピックを中心、区民の方から寄贈された貴重な資料を紹介しました。

冬の体験イベントでは、実際に足踏みミシンを動かしたり、暗い部屋の中で、ろうそくと灯明皿のあかりを体験しました。火打鎌に火打石を当て火花を起こすと、参加者からは感嘆の声が上がり、子どもたちは目を輝かせていました。



講 座

リレー講座「目黒を語る」 1月11日～2月1日 全8回

めぐろ歴史資料館初の試みとして、全職員8名がそれぞれの専門分野から見た「目黒」について語る、連続講座を開催しました。テーマは開催順に、①「目黒の文化財について」、②「中世武士目黒氏の軌跡ー列島を駆け抜けた武士たちー」、③「江戸時代の目黒における將軍の鷹狩りと綱差權兵衛」、④「目黒の宮彫～社寺の建築装飾について～」、⑤「葬送儀礼の民俗～送りの変容・目黒と都下を中心に～」、⑥「『万葉集』と目黒～武藏国荏原郡防人の歌～」、⑦「郷土玩具の世界」、⑧「目黒の食文化を探る」で、目黒の歴史や文化など、多岐にわたる内容について紹介しました。参加者から、ぜひまた開催してほしいという声が多く寄せられました。



屋外展示場の石造物を修復しました

めぐろ歴史資料館の屋外展示場には、江戸時代から近代にかけて19点の石造文化財が配置されています。長年、風雨にさらされて石材が劣化し、表面が浮きあがったり剥離したりし、石と石を固定していた接着剤も脆くなっていました。そこで、①目黒不動尊の門前にあった料亭「大國家」の由緒が刻まれた石碑、②五本木通りで往来の安全を見守ってきた馬頭観音、③江戸時代から昭和の初期頃まで使用された力石、④墓石にも転用された五輪塔（写真下）の4点について保存処理を施すことにしました。

五輪塔と力石は一度解体して、馬頭観音と大國家の由緒碑はそのまま風化の進行に注意しながら丁寧に石材の表面についた泥や苔類を洗い流し、乾かしてから石材強化剤を含浸させます。剥離した石の表面や亀裂部分には、注射針で接着剤を注入し固定させました。五輪塔と力石は洗浄（写真①）後に再度水平を見ながら組み直し（写真②）、石材と同じ石質の粉を混ぜたモルタルで固定し（写真③）、さらに石材強化剤を含浸させ、乾いてから雨水などをはじく撥水処理を施しました（写真④）。こうして保存処理を施した石造文化財は、これからも目黒の歴史を長く後世に語り継いでいくことでしょう。



縄文時代のお守り!? 土版～どばん～

縄文時代になると、土器や石斧、石鎌など実用の道具だけではなく、土偶や勾玉、石棒といった信仰やまじないの道具も作られるようになります。ここで紹介する土版もその一つです。土版は手のひらサイズの扁平な土製品の表面に模様を付けたもので、護符あるいは呪術の道具と考えられています。

めぐろ歴史資料館に展示されている土版（写真右）は、1982年（昭和57年）に目黒不動遺跡第2次発掘調査で発見されたもので長軸8.2cm、幅5.1cm、厚さ2.0cmです。表面には細い棒状のもので引いた沈線が何本も施されていますが、よく見ると真ん中に上から下に向かって2本の沈線を施した後、その両側にそれぞれ4本から5本の沈線で模様を付けて、さらに表面を磨いています。土版は東日本を中心として縄文時代後期から晩期のものが発見されていますが、この土版は縄文時代中期末（約4000年前）の資料とされ、都内最古級の資料として注目されています。

目黒区内からは、東山貝塚遺跡などからも土版が出土していますが、いずれも割れて破片になってしまっていて、完全な形が残っている目黒不動遺跡の土版は貴重な遺物です。



目黒不動遺跡から出土した土版 (原寸大)

見学のご案内

駐車場がありませんので、公共の交通機関をご利用いただくか、お近くの有料駐車場をご利用ください。

めぐろ歴史資料館

入館料無料

開館時間 9:30~17:00

休館日 月曜日（ただし、月曜日が祝日の場合は火曜日）、12/29～1/3

電話番号 03-3715-3571

所在地 目黒区中目黒3-6-10(地図左)

古民家

入館料無料

開館時間 9:30~15:30

休館日 月・火曜日（ただし、祝日は公開。両日とも
祝日の場合は翌平日）、12/28～1/4

電話番号 03-3714-8882

所在地 目黒区碑文谷3-11-22（すずめのお宿緑地公園内）（地図右）



文化財係（目黒区教育委員会事務局生涯学習課）

文化財の保護・保存・活用・普及、埋蔵文化財に関する業務

電話番号 03-5722-9320 (月～金曜日 8:30～17:00)

ただし、祝日及び12/29～1/3を除く。)

めぐろ歴史資料館・文化財だより つどい15号

令和2年3月発行 発行 目黒区教育委員会

編集 めぐろ歴史資料館（目黒区教育委員会事務局生涯学習課）

印刷 勝村印刷所

主要印刷物番号

31教-5号